

ナイチンゲールの著作における Threefold Interest (三重の関心) に関する文献的研究

見城 道子

抄 録

目的: ナイチンゲールは、看護師のもつべき関心として Threefold Interest (三重の関心) を提示した。しかし日本の看護教育において Threefold Interest は必ずしも一般的ではない。ナイチンゲールは Threefold Interest になにを託したのか、看護における意味を改めて確認する。

方法: 文献的研究。『書簡1』～『書簡14』と『看護婦の訓練と病人の看護』『病人の看護と健康を守る看護』『看護覚え書(第2版)』を対象として精読し、Threefold Interest を検索する。Threefold Interest の書かれた文脈と内容および類似の表現を確認する。また、当時のイギリスにおける看護の状況との関連を検討する。

結果: Threefold Interest は、『病人の看護と健康を守る看護』(1893)および『書簡13』(1897)に記述があり、看護の危機について述べた文脈で示された。Threefold Interest の内容は、類似しているが異なる表現もあった。Threefold Interest に似た表現は、『看護覚え書』(1860)と『書簡2』(1873)および『書簡11』(1886)に記述があった。ナイチンゲールは人間性を問わず試験のみで免許を与える制度に反対した。

考察: ナイチンゲールは、看護が実践を離れ書物や講義により学べるとすることを回避するために Threefold Interest を著したと考える。また、看護師のもつ関心が Threefold (三重)であれば、本来の看護ができると考えたと推測できる。The intellectual interest as a case は、人を客体化して事例として看ること、The moral interest は、人の喜びや苦しみを共に感じる隣人愛を個別の患者に向けること、これらを踏まえて The technical interest は、生命力の消耗が最小になるようにして、すべてを適切に行うことと考えられた。

キーワード: Threefold Interest (三重の関心)、ナイチンゲール、知性、倫理、実践

I. はじめに

ナイチンゲールは、『病人の看護と健康を守る看護』(1893)において「看護婦は自分の仕事に三重の関心をもたなければならない。1つはその症例に対する理性的な関心、そして病人に対する(もっと強い)心のこもった関心、もう1つは病人の世話と治療についての技術的(実践的)な関心である」と述べて、Threefold Interest (三重の関心)を提示した。

Threefold Interest が重要ならば著作にたびたび記述されると考えられる。しかし、『NOTES ON NURSING』(1859)および『看護覚え書』初版原文の索引とソースラを作成した小川(1999)の文献、そしてわが国で看護師にもっとも多く読まれる『看護覚え書』第2版(1860)

には Threefold Interest への言及はない。ただし、『看護覚え書』第2版(1860)の補章に「看護婦教育のABC」の表現があり、Threefold Interest と類似している。木村(2001)は、『NOTES ON NURSING』第2版の文体論的分析において、対の言語表現を抽出し、「看護婦教育のABC」との関連を検討したが、Threefold Interest との関連は検討していない。

日本の看護教育において、ナイチンゲールは、近代看護の創始者として、また衛生に関する社会改革や看護師による看護教育の実績など多岐に渡る功績が紹介されてきた(茂野, 2012; 佐藤, 2012; 野島, 2012)。初学者向けのテキストでは、『看護覚え書』の「看護とは、新鮮な空気や陽光、暖かさや清潔さや静かさを適正に保ち、食事を適切に選び管理する—すなわち、患者にとっての生命力の消耗が最小になるようにして、これらすべてを適切に行うことである」を看護の定義としている。看護理論としては、哲学に分類され、「環境」に注目した看護論

表1 著作中の“Threefold Interest”の記述箇所

“Sick-Nursing and Health-Nursing” 『病人の看護と健康を守る看護』 (1893)	The art is that of nursing the sick	一. 病人を看護する芸術
	This is the art of health	二. 健康についての芸術
	(a) sickness, nursing the sick, training needful	三. (a) 病氣・病人の看護, 必要な訓練
	(b) health, nursing the well at home, practical teaching needful	(b) 健康・家庭の健康人の看護, 必要な実地指導,
	Some dangers to which nurses are subject.	四. 看護婦が陥りやすいいくつかの危険
	Dangers	危険
	(1) fashion on the one side,	(1) 時流にのってしまうことと, その結果熱意を失ってしまうこと
	(2) mere money getting on the other.	(2) 一方では, 金銭目当てになること.
	(3) making nursing a profession and not a calling	(3) 看護をひとつの職業であるとして, 天職であると考えないこと
	(4) There is another danger, perhaps the greatest of all.	(4) もうひとつ, おそらく何よりも大きいと思われる危険がある
	(“Threefold Interest”の記述箇所)	(“Threefold Interest”の記述箇所)
	(5) Can it be possible that a testimonial or certificate of three years' so-called training or service from a hospital—any hospital with a certain number of beds—can be accepted as sufficient to certify a nurse for a place in a public register?	(5) 一定数以上のベッド数を持っている病院で三年間のいわゆる訓練または勤務をしたという証明書とか免状とかが, 公的に登録された場所で働く看護婦の資格を十分に保証できるものであろうか
	(6) Another danger—that is, stereotyping, not progressing.	(6) 固定化してしまっって進歩しないこと
	To sum up the dangers :	危険の要約
	i . fashion and want of earnestness not making it a life, but a mere interest consequent on this.	i . 世の流行にのること
	ii . mere money getting.	ii . 単にお金を得ること
	iii . Making profession and not a calling.	iii . 天職ではなく専門職にすること
iv . About all, danger of making it book learning and lectures, not an apprenticeship, a workshop practice.	iv . 特に, 現場での修行でなく, 書物や講義で学びうると考える危険	
v . Thinking that any hospital with a certain number of beds may be a box to train nurses in,	v . 一定数以上のベッドがある病院であれば, 看護婦訓練の場になると考えること	
vi . Imminent danger of stereotyping instead of progressing.	vi . 進歩するのではなく, 型にはまってくるという切迫した危険	
The benefit of combination	五. 協働することの利点	
Our hopes for future	六. 将来への希望	

とされてきた(池添, 2012; Pfettscher, 2002; Lobo, 1995). このように, 看護教育ではナイチンゲールに一定の価値をおいている.

一方, 薄井(2004)は1974年初版の『科学的看護論』において〈三重の関心〉を実践方法論に位置づけた. そして, 『科学的看護論』を身につけた看護職により, 研究が蓄積され, 実践されており(新田, 2008; 齊藤ら, 2008; 小笠原, 2011), 薄井の理論をカリキュラムの柱にしている教育機関もある(山崎, 2009). しかし, わが国の看護教育において必ずしも Threefold Interest は実践方法論として一般的ではない.

そこで, Threefold Interest の看護における意味を改めてナイチンゲールの文献からとらえ, 検討した.

II. 研究目的

ナイチンゲールは Threefold Interest という言葉になにを託していたのか, Threefold Interest の看護における意味を改めて確認する.

III. 研究方法

1. 文献的研究

ナイチンゲールの著作の原著とその邦訳を対象として, そこに現れた Threefold Interest について, 当時のイギリスの看護を取り巻く状況を踏まえ文献的に検討する.

2. 研究対象

ナイチンゲールの著作で看護の教育や訓練について述べている以下の文献を対象とした.

- ①『対訳看護覚え書』(1860/1998)
- ②“Nightingale’s Addresses to Nurses”(1872~1900)
- ③『書簡1』(1872)~『書簡14』(1900)
- ④“Nurses, Training of,” and “Nursing the Sick,” (1882)
- ⑤『看護婦の訓練と病人の看護』(1882)
- ⑥“Sick-Nursing AND Health-Nursing”(1893)
- ⑦『病人の看護と健康を守る看護』(1893)

また, 当時のイギリスの看護の実状を知るため『フロ

(表1 つづき)

Address 13 『書簡13』 (1897)	this calling (nursing to His honour)	天職 (神の栄光のための看護の仕事)
	1. A good nurse must be a good woman.	二. (1) 優れた看護婦は優れた女性でなければならない。
	2. What should be the characteristics of the good woman ?	(2) 優れた女性の備えるべき性質。
	3. Nurse Harvey, Sister Victoria.	(3) ハーヴェイ看護婦. シスターヴィクトリア.
	"Nursing has been invented, now it has to be reformed."	三. 「看護は生み出された. 今や改善のときである」
	4. Never let doctors have to say of us what they have said of some nurses : "She knows as many words as I do, but she does not know how to make a patient comfortable."	四. ある看護婦たちについて, かつて医師たちが次のような批判をしましたが, 二度とこんな批判を受けないようにしようではありませんか. 「あの看護婦は, 私たち医師と同じくらい専門用語を知っている. しかし, どうすれば患者を安楽に出来るかはまるで知らない」
	HOSPITAL NURSING.	五. 病院看護
	WORKHOUSE (UNION) INFIRMARIES.	六. 救貧院病院
	DISTRICT NURSING.	七. 地域看護
	PRIVATE NURSING.	八. 付添看護婦
	MATERNITY NURSING.	九. 産科看護
	CONCLUSION	むすび
	1. There is no doubt that this is a critical time for nursing.	(1) 看護がいま危機にあることは, 疑うべくもないことです
	2. Let us run in another current. (“Threefold Interest” の記述箇所)	(2) 私たちは, もうひとつ別の流れに従おうではありませんか. (“Threefold Interest” の記述箇所)
	3. we are to make progress with the calling we have chosen, and not with registers, uniforms or the outward forms.	(3) 私たちが免許や制服や外見を追い求めるのではなく, 自分の選んだ天職を追い求めて進歩していくべきであることを意味している。
4. It is a very serious, delightful thing, like life, requiring training, experience, devotion, not by fits and starts, patience, a power of accumulating, instead of losing—all these things.	(4) 看護とは, 《人の一生と同じように》厳粛でかつ喜びにあふれたものであって, たゆみない訓練と経験と忍耐と, 衝動に駆り立てられたものでない献身と, そしてこれらすべてを積み重ねていく力とが要求されるものなのです. 決してこれらを捨て去ることではないのです。	
5. We are still only on the threshold of training.	(5) 私たちは, まだ訓練の入口に立っているにすぎません	
I pray that we may know the times and the seasons, and be true to our calling .	そのような時, そのような時節が私たちに来ますように, そして私たちが自らの天職に真実でありますように, 祈っています	

注: (“Threefold Interest” の記述箇所) および太字は, 著者が記入した。

レンス・ナイチンゲールの生涯 下巻』(Woodham-Smith, 1950b) を用いた。本稿では、『書簡』の番号は、原文の The Collected Works of Florence Nightingale Vol. 12 (McDonald, (2009) および翻訳書の『ナイチンゲール著作集 第3巻』に従って表記する。

3. 研究対象の選定理由

『看護覚え書』第2版は、1860年、ナイチンゲールが40歳の時の著作で、補章「看護婦とは何か」を加え、読者として看護婦を想定している。Skretkowicz (1992) によれば、1860年に図書館標準版として発行された第2版だけが専門家のための文献として意図された。また、看護史上初めて看護という言葉を概念化して使用した著作(小澤, 2006)である。

『書簡』は、Address とよばれ、聖トマス病院の看護婦と見習生に宛てた半公式の教書(湯楨, 1977)とされる。看護婦学校開設から10年間に看護婦の団は、ロンドンにとどまらず海外に派遣された。しかし需要の多さに学

校は初期の水準から低下し、開校12年目の1872年にナイチンゲール自ら新しい計画を立案した。この1872年(52歳)から1900年(80歳)の28年間に14通の書簡が送られた(湯楨, 1977)。書簡は、初等教育の不十分な学生にも理解できるよう、学問的な引用を避け、聖書や賛美歌の聞きなれた成句により、もっとも教育の不十分な人をも動かすことができた(Nash, 1914)。ナイチンゲールは、教壇に立たなかった(湯楨, 1977)ゆえに、書簡は目指す看護をわかりやすく伝えたものといえる。

『看護婦の訓練と病人の看護』は、62歳のときに書かれ、医学博士ロバート・クェイン准男爵編集の『クェイン内科学辞典』の論文を転載している。辞典に寄稿する事実のまえて、深い思索により生み出され、長年の経験に裏づけられ、すべての質の高い看護が踏まえていない(Seymmer, 1945a)とされる著書である。

『病人の看護と健康を守る看護』は、73歳のときに、看護婦登録制度をめぐる政策論争の末、イギリス王立看護

表2 ナイチンゲールの著作における“Threefold Interest”「三重の関心」の記述

文献/発表年	“Threefold Interest” 「三重の関心」の記述	
<p>“Sick-Nursing and Health-Nursing” p.215 『病人の看護と健康を守る看護』 p.140 1893年 (73歳)</p>	<p>(4) There is another danger, perhaps the greatest of all. It is also a danger which grows day by day. It is this : ……; believe that everything can be taught by book and lecture, and tested by examination—that memory is the great step to excellence.</p>	<p>(4) もうひとつ、おそらく何よりも大きいと思われる危険がある。 これもまた日に日に増大してきている。 (中略) すべてのことは書物と講義によって教えるし、試験によってテストされ得る—記憶こそが優秀さへの重要な階段である—と信じるようになってきたことである。</p>
	<p>……, that is, practice guided by brains. But you have another, a quite other sort of a thing with nursing, for you have to do with living bodies and living minds and feelings of both body and mind. ……</p>	<p>(中略) すなわち頭脳に導かれた実践である。 しかし看護の実践には全然別の種類のことがある。 つまり、看護は生きた身体と生きた心と、心身一体のあらゆる感情とに働きかけるのである。(中略)</p>
	<p>The physician or surgeon gives his orders, …… The nurse has to carry them out, with intelligence of conditions, every minute of the twenty-four hours.</p>	<p>内科医あるいは外科医は、……指示を出す。 看護婦は二四時間をすべて、その条件を理解しつつその指示を実施しなければならない。</p>
	<p>The nurse must have method, self-sacrifice, watchful activity, love of the work, devotion to duty (that is, the service of the good), the courage, the coolness of the soldier, the tenderness of the mother, the absence of the prig (that is, never thinking that she has attained perfection or that there is nothing better).</p>	<p>看護婦に要求されることは、体系的な方法、自己犠牲、慎重な行動、仕事に対する愛着、役割に対する専心(すなわち善なるものへの奉仕)、勇気、兵士の持つ冷静さ、母親のもつやさしさ、自信過剰のないこと(すなわち自分は完全に行なったとかこれ以外によいことはないなどと決して考えないこと)などである。</p>
	<p>She must have a threefold interest in her work : an intellectual interest in the case, a (much higher) hearty interest in the patient, a technical (practical) interest in the patient's care and cure. She must not look upon patients as made for nurses, but upon nurses as made for patients.</p>	<p>看護婦は自分の仕事に三重の関心をもたなければならない。ひとつはその症例に対する理性的な関心、そして病人に対する(もっと強い)心のもった関心、もうひとつは病人の世話と治療についての技術的(実践的)な関心である。 看護婦は病人を看護婦のために存在するとみなしてはならない。看護婦が病人のために存在すると考えなければならない。</p>
	<p>There may also now—I only say may—with all this dependence on literary lore in nurse training, be a real danger of being satisfied with diagnosis, or with looking too much at the pathology of the case, without cultivating the resource or intelligence for the thousand and one means of mitigation, even where there is no cure.</p>	<p>この点において、看護婦の訓練が書かれた学問に依存していることが、今やひとつの実際面での危険であるかも知れない。私は、《かも知れない》とだけいっておくが、それは、診断に満足したり、症例の病理のみに大きな関心をもちすぎたり、治療する見込みのないときにも病状を軽減するためのあらゆる手段を求めたり考えたりするということを怠ったりする、という危険である。</p>
<p>Never, never, let the nurse forget that she must look for the fault of the nursing as much as for the fault of the disease in the symptoms of the patient.</p>	<p>看護婦は、病人の症状を見てそこに病気のなせるわざを探し求めると同じように、そこに看護の落度がなせるわざをも探し求めなければならないことも、決して決して忘れないでほしい。</p>	

婦協会会長のクリスチャン王女に捧げる講義論稿として書かれた(Woodham-Smith, 1950b)。また、王立イギリス委員会が提供した女性の仕事に関する論文に含まれ、シカゴ大博覧会で朗読された(薄井, 1974)。その後有名な慈善家バーデッド=クーツ男爵夫人の編纂により出版された『女性の使命』から転載され、優れた看護と優れた訓練の必要性を強調し(Seymer, 1945b)、王女と世間に本来の看護を伝えている。

4. 分析方法

- (1) 著作を精読し Threefold Interest を検索する。
- (2) Threefold Interest の記述のある著作について、著作中の話題のまとめりに主題を抽出し、原文と翻訳を対比した表を作成し、ナイチンゲールはどのような文脈で Threefold Interest を著したか確認する。

- (3) Threefold Interest の原文と翻訳を対比した表を作成し、Threefold Interest の記述を確認する。
- (4) 著作を精読し Threefold Interest と類似の表現を抽出し、原文と翻訳を対比した表で特徴を確認する。
- (5) Threefold Interest の書かれた当時のイギリスにおける看護の状況との関連を検討する。

IV. 結 果

1. Threefold Interest が記述されている文脈

『看護覚え書(第2版)』(1860)、『書簡1』(1872)～『書簡14』(1900)と『看護婦の訓練と病人の看護』(1882)、『病人の看護と健康を守る看護』(1893)を対象として精読し Threefold Interest を検索した。
その結果 Threefold Interest は、『病人の看護と健康を

(表2 つづき)

文献/発表年	“Threefold Interest” 「三重の関心」の記述	
Address 13 p.879 『書簡13』 p.448-449 1897年6月 (77歳)	CONCLUSION 1. There is no doubt that this is a critical time for nursing. ……	むすび (1) 看護が危機にあることは、疑うべくもないことです。 (中略)
	Nursing takes a whole life to learn.	看護を会得するには一生かかるのです。
	We must make progress in it every year.	私たちは年毎に進歩し続けなければならないのです。
	It takes five years, not of words, but of practice, to make a ward sister.	病棟シスターになるには、＜言葉＞ではなく、実践の五年間が必要なのです。
	There seems some danger that the twentieth century will be an age not of facts, but of enthusiasms without facts.	二〇世紀が＜事実＞の時代とはならず、＜事実＞を離れた狂信の時代になってしまう危険を、私は感じています。
	2. Let us run in another current. The patient is to us a threefold interest	(2) 私たちは、もうひとつの別の流れに従おうではありませんか。 私たちは患者に三重の関心をもたなければなりません。
	: the intellectual interest as a case, which requires the closest observation of facts, to be explained by the lecture and the clinical teaching	ひとつは症例としての理性的な知識上の関心であって、そのためには事実についての綿密な観察が必要ですが、それについては講義や臨床指導においてよく説明されています。
: the moral interest, as a fellow creature to whom we must do, while under our care, either moral good or moral harm	つぎは、同じ人間同士としての倫理的な関心、私たちは患者をケアしながらも、倫理的に見て、彼らに善を行うか傷をつけるか、そのどちらかをしているのです。	
: the technical interest, whereby we learn what to do for the patient, and how to do it, under the orders of the doctor.	そして最後に技術的な関心、それに支えられて私たちは、医師の指示の下に患者に何をなすべきか、いかにすべきかを学ぶのです。	
Let us try to fulfill our obligations to our patients in God's strength (not our own) in all these ways.	私たちは、この三つのすべての面において、神の力(己の力でなく)に支えられつつ、患者に対する私たちの務めを果たしていこうではありませんか。	

注：下線は本文中で提示した箇所につけ、太字は“Threefold Interest”「三重の関心」に著者が付けた。

守る看護』(1893, 73歳) および『書簡13』(1897, 77歳)に記述があった。共に70歳を過ぎての著作であった。2か所の想定する読者は異なり、一方はイギリス王女と世間一般を、一方は看護婦と見習生だった。

著作中の話題のまとめりに主題を抽出して並べ、Threefold Interest の書かれた文脈を確認した(表1)。その結果、2つの著作とも、Threefold Interest は、看護が陥りやすい危険や危機について述べた文脈に記述されていた。また、看護を calling (天職) として追求すべきと繰り返し述べていた(表1)。

『病人の看護と健康を守る看護』(1893) では、Threefold Interest の記述は、“Some dangers to which nurses are subject (四. 看護婦が陥りやすいいくつかの危険)” に続く Dangers (危険) の (4) There is another danger, perhaps the greatest of all. ((4) もうひとつ、おそらく何よりも大きいと思われる危険がある) に続いて記述されている(表1, 表2)。この危険とは、「すべてのことは書物と講義によって教えうるし、試験によってテストされ得る—記憶こそが優秀さへの重要な階段である—と信じるようになってきたことである」を指している。そして危険を避ける具体的な方法として、Threefold Interest を示している。

『書簡13』(1897) では、Threefold Interest の記述は、CONCLUSION の2にある(表1)。CONCLUSION の1

では、There is no doubt that this is a critical time for nursing.(看護がいま危機にあることは、疑うべくもないことです)で始まり(表1)、It takes five years, not of words, but of practice, to make a ward sister.(病棟シスターになるには、＜言葉＞ではなく、実践の五年間が必要なのです)と述べている(表2)。これに続く CONCLUSION の2では、「私たちは、もうひとつ別の流れに従おうではありませんか」と述べ、続いて Threefold Interest を説いている(表1, 表2)。

2. Threefold Interest の内容

『病人の看護と健康を守る看護』(1893) と『書簡13』(1897) の Threefold Interest の表現は、冠詞が違うものの類似の記述である(表2)。

『病人の看護と健康を守る看護』(1893) では、“She must have a threefold interest in her work : an intellectual interest in the case, a (much higher) hearty interest in the patient, a technical (practical) interest in the patient's care and cure.” と簡潔に記述している。

『書簡13』(1897) では、“The patient is to us a threefold interest : the intellectual interest as a case, which requires the closest observation of facts, to be explained by the lecture and the clinical teaching ; the moral interest, as a fellow creature to whom we must do,

表3 ナイチンゲールの著作における“Threefold Interest”「三重の関心」と類似の表現

文献/発表年	“Threefold Interest”「三重の関心」と類似の記述	
<p>補章『対訳看護覚え書』 p.226-227</p> <p>1860年 (40歳)</p>	<p>What strikes one most with many women, who call themselves nurses, is that they have not learnt this A B C of a nurse's education. <u>The A of a nurse ought to be to know what a sick human being is. The B to know how to behave to a sick human being. The C to know that her patient is a sick human being and not an animal.</u></p>	<p>自らを看護婦と称する多くの女性たちに関して最も驚かされるのは、彼女たちが看護婦教育からABCを学んできていないことです。看護婦にとってのAとは、病気の人間とはどういうものであるかを知ることです。そしてBは、病気の人間に対していかに行動すべきかを知ることであり、Cは、自分の患者は病気の人間であって動物ではないのだと知ることなのです。</p>
<p>Address 2 p.775 『書簡2』 p.286</p> <p>1873年 5月23日 (53歳)</p>	<p>There are <u>three things</u> which one must have to prevent this degeneration in oneself. And let each one of us, from time to time, tell, not anyone else but herself, whether she has these less or more than when she began her training here.</p> <p><u>One is the real deep religious feeling and strong personal motherly interest for each one of our patients.</u> And you can see this motherly interest in girls of twenty-one. We have had sisters of not more than that age who had it—and not see it in women of forty.</p> <p><u>The second is a strong practical (intellectual, if you will) interest in the case, how it is going on.</u> This is what makes the true nurse. Otherwise the patients might as well be pieces of furniture, and we the housemaids, unless we see how interesting a thing nursing is. This is what makes us urge you to begin to observe the very first case you see. May I say something about this farther on?</p> <p><u>The third is pleasures of administration, which, though a fine word, means only learning to manage a ward well : to keep it fresh, clean, tidy ; to keep up its good order, punctuality ; to learn to report your cases with absolute accuracy to the surgeon or physician, and to do this you must learn first to report them to the sister ; and all that is contained in the one word—ward management : to keep wine lists, diet lists, washing lists, that is sister's work—and to do all the things no less important which constitute nurse's work.</u></p>	<p>私たちが持っているべき<u>三つの関心</u>があり、それを自分の中で失ってはなりません。そして時折私たちはそれぞれに、他人にではなく自分自身に向かって、自分がここで勉強を始めたときに比べて、これら<u>三つの関心</u>がどれだけ強まったか弱まったかを問いかけてみようではありませんか。</p> <p>その第一は、<u>真実の深い宗教的感情と自分の受け持ち患者ひとりひとりに対する個別的で母親的な深い関心</u>です。この母親的な関心は、二歳のまだ若い女性たちにみることもできます—中にはその年齢にも達していないのにもっていたシスターもいました—、その反対に、四〇歳になってもまだ《みられない》女性もいます。</p> <p>第二は《<u>症状</u>》とその経過に対する強い実地的な（<u>理性的ともいえる</u>）関心です。これが真の看護婦を育てるのです。そうでなければ、患者もひとつの家具にすぎないといったことになってしまいます。また看護がどんなに興味深い仕事であるかがわからないかぎり、私たちはたんなる召使いにすぎないといったことになってしまいます。そのような意味で、ともかくも最初の患者を受けもったときからすぐに〔病人の〕<u>観察を始めなさい</u>、と私たちはすすめるのです。</p> <p>第三は<u>管理することの楽しみ</u>です。管理というのたいそうに聞こえますが、つまりは病棟を上手に切り盛りすることつを会得するという意味です。たとえば、病棟の空気を新鮮に保つこと、清潔にすること、ものをきちんと片づけること、全体に秩序を保つこと、時間を厳守すること、受持患者の症状について外科医や内科医に正確な報告をすること、そしてそれをまずシスターに報告すること、一言でいえば、病棟の運営に含まれる一切の仕事を執り行なうことなのです。薬用酒類の一覧表や食餌表や洗濯表などをきちんとつけること—これらはシスターの仕事ですが—さらにこういった看護婦の仕事を構成している他の重要な仕事をすべてを執り行なうことなのです。</p>

while under our care, either moral good or moral harm ; the technical interest, whereby we learn what to do for the patient, and how to do it, under the orders of the doctor.” と、より簡潔に Interest を表現し、その後短い説明がある。

次に、Interest の表現を確認する。共通して Intellectual と Case および Technical が使われたほか、同じ内容に Technical と practical, hearty と moral と異なる表現もみられた。

以降は、より簡潔な表現である『書簡13』の、“the intellectual interest as a case” “the moral interest” “the technical interest” で記述する。また、原文には3つの順序に意味をもたせた表現はない。

3. Threefold Interest と類似した表現の特徴

Threefold Interest と類似の表現は、『看護覚え書』

(1860, 40歳) と『書簡2』(1873, 53歳) および『書簡11』(1886, 65歳) に記述がある(表3)。

『看護覚え書』補章の「看護婦教育のABC」の記述は表3のとおりである。“The A of a nurse ought to be to know what a sick human being is.” は、「病気の人間とはどういうものであるか」と、病気の人間を理論的にとらえようとする表現から、“the intellectual interest as a case” に類似する。“The B to know how to behave to a sick human being.” は、「病気の人間に対していかに行動すべきか」と、病気の人間に対してとる行為の仕方について述べていることから、“technical interest” に類似する。“The C to know that her patient is a sick human being and not an animal.” は、「患者は病気の人間であって動物ではない」と逆説により、患者は意思のある人間であることを強調して述べ、“the moral interest” に類似する。

(表3 つづき)

文献/発表年	“Threefold Interest” 「三重の関心」と類似の記述	
Address 11 p.858-859 『書簡11』 p.410-412 1886年 新年の日 (65歳)	<p>And, first, we can apply his words to nurses' care of patients. Our interest in their weakness and infirmities, our observation of their symptoms and pains, of what they eat and how much they eat, feeding the helpless ones, never leaving their food on the locker and taking it away untasted, giving the drink of milk or water when wanted ; marking the quality of their sleep, of their several functions ; attending to their warmth, their hot bottles, their fresh air, their cleanliness ; carefully washing, when ordered, between blankets ; never weary of changing those who want changing ; listening to their complaints, and caring for all the thousand-and- one petty details which are important, which often are vital, and which make up the good nurse ; ……</p>	<p>何よりもまず、彼の言葉は看護婦が行う患者へのケアにそのまま当てはまるのです。すなわち、衰弱している患者に向けられる関心。患者に表われるもろもろの症状や痛みについての観察。何をどのくらい食べているかについての観察。弱りきった患者への食事の介助。食物を病室の棚に置き放しにしたりしないこと。患者が口をつけない時には食物を運び去ること。牛乳や水などの飲み物を欲しがるときにはそれを与えること。その睡眠の型質に注意すること。温度、湯タンポ、新鮮な空気、そして清潔に留意すること。指示された時には患者を毛布の間に包んで念入りに清拭すること。からだの向きを変えてほしいと望む患者に対しては厭わずに交換すること。訴えには耳を傾けること。小さなことでありながら重要なことであり、しばしば《生命にもかかわる》ことであり、それが看護婦を優れた看護婦たらしめていることでもある無数の〈こまごましたこと〉を軽んじてはならないこと。(中略)</p>
	<p>Then comes, too, the intelligent interest in the symptoms and varieties of disease, called, rather grandly, the “spirit of science.”</p> <p>And still we ask, Does the interest of nursing the sick stop here? No, indeed, if we deserve the name of women, a thousand times No. “Humanity” is our “moral motive,” more even than it is that of men.</p>	<p>これに続いて、かなり広い意味での、いわゆる「科学的なもの見方」とよばれるもの、すなわち病気の症状や種類に対する知性的な関心が湧いてきます。</p> <p>ここで私たちもまた自分に問いかけてみましょう。病人を看護する場合の関心は、この段階までで終わるのでしょうか？</p> <p>いいえ、とんでもありません。私たちが女性の名に恥じないものであるならば、何千回でも「いいえ」と繰り返します。</p> <p>そこでその次に「人間性」が私たちの「倫理的動機」となるのであり、私たちはその点においては男性より勝るとさえいえるのです。</p>

注：下線は原文と翻訳にはなく、“Threefold Interest” 「三重の関心」と類似の記述および本文中に提示した箇所に著者が付けた。

『書簡2』(表3)では、“three things”(三つの関心)と述べ、3つそれぞれの説明では、Interestという言葉を用いている。また、One, The second, The thirdと、順序を示す表現がある。3つを書かれている順に検討する。まず、“real deep religious feeling” 「真実の深い宗教的感情」と “strong personal motherly interest” 「個別の母親的な深い関心」を “for each one of our patients” 「受け持ち患者ひとりひとりに対する」と個別の患者への慈悲深い関心として示し、人としての道ともいえる “the moral interest” に類似する。また、“strong practical” 「強い実際的な」と “Intellectual” 「理性的な」と述べ、“case” の字体を変えて強調し、“how it is going on” と、「経過」への関心を示し、“the intellectual interest as a case” に類似する。そして、“pleasures of administration” 「管理することの楽しみ」といい、“ward management” 「病棟の運営」を挙げるほか、“and to do all the things no less important which constitute nurse’s work.” 「さらにこういった看護婦の仕事を構成している他の重要な仕事をすべて執り行なうことなのです」と行為することを述べ、“technical interest” に類似する。

『書簡11』では、Three Things や Threefold Interest のような表現はない(表3)。そして、“Then comes…” や、“Does the interest of nursing the sick stop here? No, …” と順序を示唆する表現がみられる。最初は、症

状や痛み、食事の観察について述べるが、それに続いて具体的な看護の行為に言及し、“technical interest” に類似する。続いて、“the intelligent interest in the symptoms and varieties of disease” 「病気の症状や種類に対する知性的な関心」と述べ、“the intellectual interest as a case” に類似する。さらに、“Humanity” is our “moral motive” 『「人間性」が私たちの「倫理的動機」となる』と述べ、“the moral interest” に類似する。

4. 1890年前後のイギリスの看護の状況

Woodham-Smith (1950b) は、1890年前後のイギリスの看護の状況に関して下記のように記述している。ナイチンゲールの成果にだれも異論はなく看護界に及ぼす影響力は絶大だった。しかしナイチンゲールの提唱するきめ細かく厳格な訓練形態では、必要な看護婦の量を満たせない実状だった。1886年には、看護界の一部から看護婦登録制度への動きが始まるが、ナイチンゲールは制度に反対を表明した。反対の第1の理由は、40年もすればそれに相応しい段階に到達するであろうが、現在は未熟で、未組織で、単一の基準を適用するには雑多なものを内に擁していたこと。第2の理由は、この登録制度案が試験のみで看護婦資格を認定し、人格の鍛錬をまったく無視していたためであった。

イギリス看護婦協会は、1888年に登録制度に関する委

員会を発足したが、意見の対立は深刻になった。推進派のイギリス看護婦協会は、1889年に政策要項を発表した。クリスチャン王女は、イギリス看護婦協会会長となり、1891年には、イギリス王立看護婦協会となった。登録制度に関しては、1893年に「登録」という言葉は削除され、「看護婦として氏名の掲載を申請した者の名簿を保管する権限」がイギリス王立看護婦協会に与えられ、推進派も反対派も成功しなかった (Woodham-Smith, 1950b)。

V. 考 察

1. 看護の危機を避けるための Threefold Interest

『病人の看護と健康を守る看護』と『書簡13』において、ナイチンゲールが Threefold Interest を提示したのは、看護の危機に関する文脈であった。『病人の看護と健康を守る看護』(1893)の執筆は、看護婦登録制度の政策論争に終止符が打たれた1893年と重なる。しかし、1897年の『書簡13』においても看護の危機であると述べ、看護婦登録制度に異議を唱えた。これは、イギリスにおける看護婦登録法成立は、最終的に1919年である(小玉, 1995)ことが示すとおり、危機の持続に警鐘を鳴らし続けたといえる。ナイチンゲールは、看護が実践を離れ書物や講義により学べるとすることを回避するために Threefold Interest を著したと考えられる。さらに、看護婦免許取得により金銭が得られる風潮に危機感を唱え、免許取得時の知識に止まることは墮落であるとした。つまり、医学の進歩や社会の変化に対応し、自分で学習し、思考し、実践し、自ら学ばなければ学べないものであり、看護師である限り進歩を続けなければならず、それには継続して学ぶ意欲が重要だったと考える。

2. Threefold (三重) であることの意味

Woodham-Smith (1950a)によれば、クリミア戦争の従軍看護婦の選抜に際し、ナイチンゲールは、宗教によらず看護婦の適正で選ぶよう主張した。実際に、修道女や尼僧、宗教団の看護婦は患者の肉体より精神のほうに強い関心を寄せがちで、患者の身体は汚れたまま放置した。病院看護婦は、患者の病める肉体を介抱し、医師の指示を実行し、患者の肉体的健康を取り戻すことが役割だと考えていたが、下品で泥酔するなど問題があった。この経験から『看護覚え書』(1860)で「看護婦教育のABC」を示したと考える。

『病人の看護と健康を守る看護』(1893)では、看護のあるべき姿を王女や世間に伝える意図があり、冒頭で、「新しい芸術であり新しい科学でもあるものが、最近40年の間に創造されてきた。(中略)その芸術とは、病人を看護する芸術である。病気の看護ではなくて、病人の看護というところに注意してほしい。われわれはこの芸術

を本来の看護 [nursing proper] と呼ぼう」と述べ、人への看護であることを強調した。そして、診断や病理にかたよる関心を向けることにより病人を事例のひとつ、つまり物体(『看護覚え書』で動物に、『書簡2』では家具に例えた)とみなすことを危惧し、診断に満足して症状の緩和を怠ることを危惧し、看護の落ち度を見過ごす危険を指摘し、これらの危険を避けるために Threefold Interest を提唱したと考える。また、原文には順序に意味をもたせた表現はないため、積み上げて重ねる階層や序列ではないと考える。むしろ Threefold (三重)に意味があり、3本の糸を撚り合わせることにより、丈夫で質のよい糸ができるように、三重に関心を向けることにより、質のよい看護ができると考えてはどうだろうか。つまり、看護における関心は、病気や事例にかたよる危険や、患者の気持ちに巻き込まれる危険、病状や心情を踏まえずに技術を適用する危険を、Threefold Interest ならば回避でき、本来の看護ができると考えたと推測できる。

3. “the intellectual interest as a case” “the moral interest” “the technical interest” の意味

“the intellectual interest as a case”の intellectual は、「知性の」や「理論的な」という意味がある。case は、『書簡2』では字体を変えて強調している。また、patient や sick, person や human という病人や人間を指す表現ではなく、case「事例」(翻訳では症例)と表現していることから、非常に理論的に、客観的に人を客体化してとらえる見方といえる。

次に“the moral interest”は、hearty (心のこもった)や moral (倫理的)、humanity (人間性)や moral motive (倫理的動機)、the real deep religious feeling (真実の深い宗教的感情)や strong personal motherly interest (強い個別的で母親的な関心)と表現されていた。この関心は、『書簡2』では、“for each one of our patients”と、患者一般ではなく、個別の患者に対しての関心と考えられる。これは、母親の慈愛であり、人の喜びや苦しみを共に感じる隣人愛を個別の患者に向けることであり、意思のあるひとりの人間としての患者の立場になって看ることであると読み取れる。

そして、“the technical interest”の technical (技術的)は、practical (実践的)とも表現され、また、in the patient's care and cure なので、病人の世話と治療についての技術や実践である。『書簡2』では、“to keep~”の表現がみられ、administration, management (管理)の内容も含まれた。ここでいう管理は、『看護覚え書』(1860)の「小管理」で述べているように、患者に必要な看護は、自分が不在の際にも行われるように計らう技術も指すと考える。『書簡2』では、「さらにこういった看護婦の仕事を構成している他の重要な仕事のすべてを執

り行なうことなのです」と述べた。このように“the technical interest”とは、看護実践であり、患者にとっての生命力の消耗が最小になるようにして、すべてを適切に行うことだと考えられる。

4. Threefold Interest の前提としての“calling”

ナイチンゲールは、Threefold Interest を記述した著作中で繰り返して calling に言及した。天職を指す vocation や、宣教や義務のニュアンスのある mission ではなく、calling であることから使命感がもっとも近いと考えた。学習し、進歩し続けるには calling (使命感) による支えが必要と伝えたものと考えられる。

VI. 結 論

ナイチンゲールは、さまざまな表現で看護の本質を示してきた。しかし、「本来の看護」は、看護師に十分理解されているとはいえなかった。記述試験のみで判断する登録制度が開始されれば、人間性を欠く者も正式の看護師として認知される。そこで、「本来の看護」を早急に伝える必要があった。つまり、看護の危機を避けるため、Threefold Interest を提示し、「三重」であることに意味があったといえる。医療の効率が重視される現代において、訓練と修練の継続により「三重の関心」を向けた看護がさらに求められている。

引用文献

池添志乃 (2012): 第3章1. ナイチンゲール. 看護学基礎テキスト 第1巻看護学の概念と理論的基盤, 野島佐由美 (編), 44-47, 日本看護協会出版会, 東京.

木村恵美子 (2001): 『NOTES ON NURSING』第2版 (看護覚え書) の読み方の試み: 対の視点からの文体論的分析. 聖路加看護学会誌, 5 (1): 23-31.

小玉香津子 (1995): II 看護の歴史. 看護学体系 第1巻看護とは [1] 看護の概念と看護の歴史 (第2版), 井上幸子, 平山朝子, 金子道子 (編), 66-174, 日本看護協会出版会, 東京.

Lobo ML (著), George JB (編) (1995)/南 裕子, 野島佐由美, 近藤房恵 (1998): 3 フローレンス・ナイチンゲール. 看護理論集 より高度な看護実践のために, 増補改訂版 (原文4版), 35-50, 日本看護協会出版会, 東京.

McDonald L (2009): *The Collected Works of Florence Nightingale Vol. 12, Florence Nightingale, The Nightingale School*, 713, 755, 775, 858, 878, Wilfrid Laurier University Press, Ontario, Canada.

Nash R (1914)/薄井坦子, 小玉香津子, 田村 真, 他編訳 (1977): 解題 看護婦と見習生への書簡1872~1890年. ナイチンゲール著作集 第3巻 ナッシュによる解題. 湯槇ます (監修), 496-499, 現代社, 東京.

Nightingale F (1859): NOTES ON NURSING./小玉香津子, 尾田葉子訳 (1997): ノーツ・オン・ナーシング1859 付11人の看護理論家による『ノーツ・オン・ナーシング』と

私”. 日本看護協会出版会, 東京.

Nightingale F (1860)/小林章夫, 竹内 喜訳 (1998): 対訳看護覚え書. 227-228, うぶすな書院, 東京.

Nightingale F (1872~1900): *Nightingale's Addresses to Nurses (1872~1900)*. /薄井坦子, 小玉香津子, 田村 真, 他編訳 (1977): 看護婦と見習生への書簡 書簡1~書簡14. ナイチンゲール著作集 第3巻, 湯槇ます (監修), 286, 410, 448, 現代社, 東京.

Nightingale F (1882): “Nurses, Training of,” and “Nursing the Sick,” in *Quain's Dictionary of Medicine*./薄井坦子, 小玉香津子, 田村 真, 他編訳 (1974): 看護婦の訓練と病人の看護. ナイチンゲール著作集 第2巻, 湯槇ます (監修), 75-123, 現代社, 東京.

Nightingale F (1893): “Sick-Nursing AND Health-Nursing”. /薄井坦子, 小玉香津子, 田村 真, 他編訳 (1974): 病人の看護と健康を守る看護. ナイチンゲール著作集 第2巻, 湯槇ます (監修), 140, 現代社, 東京.

Nightingale F (1893): “Sick-Nursing AND Health-Nursing”. /McDonald L (2004): *The Collected Works of Florence Nightingale Vol. 6, Florence Nightingale on Public Health Care*. 215, Wilfrid Laurier University Press, Ontario, Canada.

新田なつ子 (2008): 諸現象の看護学的把握における看護者の認識の構造. 看護科学研究学会, 千葉.

野島佐由美 (2012): 第1章看護とは. 看護学基礎テキスト 第1巻看護学の概念と理論的基盤. 野島佐由美 (編), 2-5, 日本看護協会出版会, 東京.

小笠原広実 (2011): 精神を病む患者の自立を支える看護師の思考過程: 対応困難事例の分析を通して. 看護科学研究学会, 札幌.

小川典子 (1999): ナイチンゲール『看護覚え書』の構造を読む方法としての書誌学的研究. ゆみる出版, 東京.

小澤道子 (2006): 『NOTES ON NURSING』における Nursing の意味とその構造化 (課題番号14572254) 平成14年~平成17年度科学研究費補助金基盤 (C) (2) 研究成果報告書. 3.

Pfetscher SA (著), Tomey AM, et al. (編) (2002)/薄井坦子訳 (2004): 第6章フロレンス・ナイチンゲール: 近代看護. 看護理論家とその業績 (第3版), 69-89, 医学書院, 東京.

斉藤しのぶ, 河部房子, 和住淑子 (2008): 看護理論を組み込んだ教育プログラム受講後の経験を積んだ看護師の看護実践能力の発展. 千葉大学看護学部紀要, 30: 1-9.

佐藤登美 (2012): 第1章看護活動の本質, 第2章歴史に見る看護の誕生と発展. 新体系看護学全書基礎看護学 ①看護学概論 (第2版), 佐藤登美 (編), 4-5, 60-64, メヂカルフレンド, 東京.

Seymer LR (1945a)/薄井坦子, 小玉香津子, 田村 真, 他編訳 (1974): 解題 看護婦の訓練と病人の看護 (1882年) セイマーによる解題. ナイチンゲール著作集 第2巻, 湯槇ます (監修), 351-352, 現代社, 東京.

Seymer LR (1945b)/薄井坦子, 小玉香津子, 田村 真, 他編訳 (1974): 解題 病人の看護と健康を守る看護 (1893年) セイマーによる解題. ナイチンゲール著作集 第2巻, 湯槇ます (監修), 356-358, 現代社, 東京.

- 茂野香おる (2012) : 第1章看護とは, 第2章看護の対象理解. 系統看護学講座 専門分野I 基礎看護学 [1] 看護学概論 (第15版), 茂野香おる, 他 (編), 4-6, 9-11, 27-28, 60, 183-184, 318-319, 医学書院, 東京.
- Skretkowicz V (1992)/助川尚子訳 (1998). ナイチンゲール看護覚え書決定版. 医学書院, 東京.
- 薄井坦子 (1974) : 解題 病人の看護と健康を守る看護1893年. ナイチンゲール著作集 第2巻, 湯槇ます (監修), 352-353, 現代社, 東京.
- 薄井坦子 (2004) : 科学的看護論 (第3版). 日本看護協会出版会, 東京.
- Woodham-Smith C (1950a)/武山満智子, 小南吉彦訳 (1981) : フロレンス・ナイチンゲールの生涯 上巻. 201-204, 257-258, 現代社, 東京.
- Woodham-Smith C (1950b)/武山満智子, 小南吉彦訳 (1981) : フロレンス・ナイチンゲールの生涯 下巻. 354-359, 現代社, 東京.
- 山崎智代 (2009) : 薄井坦子の科学的看護論成立課程に関する研究. 東洋大学大学院紀要, 46 : 353-365.
- 湯槇ます (1977) : 解題 看護婦と見習生への書簡1872~1890年. ナイチンゲール著作集 第3巻, 湯槇ます (監修), 494-496, 現代社, 東京.

Literature Review of the Threefold Interest in the Works of Nightingale

Michiko Kenjo

Tokyo Women's Medical University School of Nursing

Objective : Florence Nightingale described a “threefold interest” that the patient ought to represent for the nurse. However, the threefold interest is not necessarily generally manifested in nursing training in Japan. This review was conducted to re-examine how Nightingale defined threefold interest and its significance for nursing.

Method : Literature review. The concept of threefold interest was explored through detailed reading of Nightingale's Address 1 to 14, Nurses, Training of and Nursing the Sick, Sick-Nursing and Health Nursing, and Notes on Nursing (2nd edition). The context in which the term threefold interest was used, how it was described, and the use of similar expressions were examined. In addition, its relationship to the circumstances of nursing in Britain at the time of the writings was considered.

Results : References to the term threefold interest appeared in Sick-Nursing and Health Nursing (1893) and Address 13 (1897), where it was used in the context of a “critical time” for nursing. Although the descriptions of the term were similar in the two references, differing expressions were also used. Expressions similar to threefold interest appeared in Notes on Nursing (1860), Address 2 (1873), and Address 11 (1886). The period around 1890 was marked by conflict between a faction that advocated a nurse registration system and opponents of such a system. Nightingale opposed a system that granted licenses based solely on testing while ignoring humanity.

Discussion : Nightingale appears to have promulgated the concept of threefold interest in order to prevent nursing from becoming removed from practice and learned only from books and lectures. Moreover, the literature suggests that Nightingale thought that by attributing to nurses a threefold interest in the patient, the nursing proper could be established. The “intellectual interest as a case” referred to care that is provided with the person objectified as a case. The “moral interest” referred to love for a fellow human being through which both the happiness and pain of the person are experienced. Based on these interests, the “technical interest” referred to appropriately implementing all of the interests in a manner that minimizes loss of vitality for the patient.

Keywords : threefold interest, Nightingale, intellectual, moral, practice